

# 「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」 会津地方かわら版

会津地方推進本部(福島県会津農林事務所)

平成28年2月29日(月)発行

## 目次

- 1 頑張る農業者の取組紹介
- 2 会津農林事務所からのお知らせ
- 3 会津農林事務所の取組紹介



## 「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』 新生運動」会津地方かわら版について

会津地方推進本部では、新生ふくしまの『食』と『ふるさと』の実現に向け、農林業者、県民、関係機関・団体が一体となり、様々な運動を展開しています。会津地方の農林業者の取組や、各部・所の取組、各種研修・イベント等の情報を発信するため、会津地方かわら版を発行しています。

## 頑張る農業者の取組紹介

### 土づくりにこだわった美味しい米作り

#### 猪苗代町 土屋 睦彦さん

猪苗代町で水稲とカラー(花き)の複合経営を行っている土屋睦彦さんの取組を紹介します。

土屋さんは東京の大学で作物を専攻し卒業後、父から実家の跡を継ぐと言われたのをきっかけに、平成16年、24歳の時に東京からUターンして就農しました。

就農当時は水稲面積8ha、カラーの栽培は僅かでした。

徐々に規模拡大を図り、米の生産調整に対する制度が手厚く

なってきたのをきっかけに、平成23年から飼料米2ha、平成24年から備蓄米5haの生産にも取組むようになりました。平成25年には水稲の一部で有機JAS認証を取得し、有機栽培の取組も始め、現在は水稲面積17ha、カラー20aにまで面積を拡大しました。

土屋さんは、「田の土づくりが好きで、土の状態が良くなっていくのが楽しみだ」と話してくださいました。米の価格相場に左右されると、肥料・土壌改良資材・堆肥等の資材にこだわった土づくりができないので、自分で価格を設定できる直接販売に力を入れているそうです。

また、土屋さんは、様々なお米のコンクールに参加し賞を受賞しています。山形県の「第8回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」では金賞を受賞。米・食味鑑定士協会の「2013年産米の米・食味分析鑑定コンクール」では特別賞を受賞しました。

現在の課題は、経営規模の拡大や周囲の農地集積を行いたいと考えているものの、思ったようには進まないことです。また、現在使用しているライスセンター(乾燥調製施設)が老朽化して非効率となってきたことです。そのため、来年はライスセンターを新たに建設し、乾燥機を4台入れ、現在の2倍の約40ha分の調製処理能力を確保する予定です。

土屋さんは、今後も土づくりにこだわった美味しい米作りを継続していくとともに、相場にあまり左右されない直接販売に取組み、セールス活動等に力を入れていきたいと考えています。

消費者へのメッセージを伺ったところ、「値段の高いものではないので、国産のお米を少しでも多く食べてもらいたい」と話していらっしゃいました。



土屋 睦彦さん



## 会津農林事務所からのお知らせ



### ○ 会津農林高校の会津伝統野菜の取組が全国表彰されました！

会津伝統野菜とは、会津地方で昔から親しまれてきた在来種のうち、採種と栽培を繰り返す中で、会津の気候・風土に根ざして定着したものであり、現在、余蒔きゅうり、かおり枝豆、小菊かぼちゃなど18種類があります。しかし、収量性が低いことなどから、現在は栽培者や生産量が激減しているため、地域の住民が地産地消を通じて、地域資源としての価値を再発見し、さらに地域経済の活性化に結びつけていく取組が重要となっています。

このため、会津農林事務所は、平成26年度から、農業教育連携促進事業の活用により、生産者と会津農林高校(会津坂下町)が連携して行う会津伝統野菜を守り育てるための取組みを支援しています。

主な内容は、①生産者による生徒への栽培技術指導、②生徒による種子の生産・販売、③生産者、生徒による販売・PR、④加工品の開発などです。

今年度は、会津農林高校で会津伝統野菜の苗を販売する体制ができ、新規生産者が増加したことや、道の駅あいづ湯川・会津坂下に「会津農林高校の伝統野菜コーナー」ができ人気となったこと、地域の量販店や東京都内で販売実習・PR活動を行い知名度が向上していることなど、多くの成果ができています。

平成27年12月には、この取組を行ってきた会津農林高校野菜専攻班の活動が評価され、プルデンシャル生命主催の青少年ボランティア活動を表彰・支援する「ボランティアスピリット賞」の“米国ボランティア親善大使賞”を受賞し、今年5月に、米国ボランティア親善大使として、アメリカで事例発表をする予定です。

会津農林事務所は、次年度以降もこの取組を支援し、会津伝統野菜の活用による食文化の継承や地域農業に精通する人材の育成を進めていきます。

【農業振興普及部】



会津伝統野菜



種まきをする会津農林高校の生徒



余蒔きゅうり栽培の指導を受ける生徒



「ボランティアスピリット賞」表彰式

## 会津農林事務所の取組紹介

### ○ 会津方部有機農業研修会を開催しました

去る12月15日、ハイテクプラザ会津若松技術支援センターにおいて平成27年度会津方部有機農業研修会を開催しました。当日は、有機農業に関わる農業者や関係者約50名が出席しました。

研修は、東京大学大学院農学生命科学科の二瓶直登准教授より、「作物の有機態窒素吸収とその利用について」と題した講演をいただきました。

作物はアミノ酸を直接取り込んでいることや、アミノ酸の効果としては主に地下部・根量が増加すること、作物の種類によって生育を増進するアミノ酸の種類が異なることなどを動画や写真等を交え、わかりやすく説明していただきました。

参加者からは、有機質肥料に含まれるアミノ酸による施肥量の削減効果や、アミノ酸を多く含む肥料に対する質問や意見が出され、盛況な研修会となりました。



質問する参加者

【農業振興普及部】

### ○ 青年農業者・女性農業者を対象とした研修会を開催しました

会津農林事務所では、将来の会津農業を背負って立つ農業者を育成するため、青年農業者(就農希望者や就農直後の農業者)へ各種の支援活動を行っています。

会津地方は雪国であるため、農作業が少ない冬期間を有効に活用した学びの場として、今回、青年農業者の集合研修会を実施しました。

研修会は1月～2月にかけて、計3回行いました。1回目には、青年農業者特有の問題点や心配事を参加者同士で話し合う場を設け、その後は経営、土壌、野菜、作物、鳥獣害など農業の基礎を広く勉強しました。

また、今回初めての試みとして、会津地方の農業を担う女性が積極的に学ぶ場を設けるため、女性限定の研修会も実施しました。研修会では、女性農業者による意見交換会を行うとともに、ロート製薬株式会社より農作業中の紫外線管理について説明してもらいました。

青年農業者、女性農業者ともに、意見交換や講師への質問など積極的に参加いただき、盛り上がりのある研修会となりました。

【農業振興普及部】



研修会のようす



女性農業者対象の研修会のようす

## ○グリーン・ツーリズム実践セミナーが開催されました

去る2月22日、しらかわ広域連携グリーン・ツーリズム推進協議会(白河市)、ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会(二本松市)、しおやグリーン・ツーリズム推進協議会(栃木県塩谷町)、喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンターの4団体、40名以上が集い、セミナーが開催されました。

喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンターの伊藤理事長が講演し、お客様に対して過剰なサービスはせず、いつもの生活を見てもらうことが大切だと説明しました。

4団体とも、グリーン・ツーリズムに関わる住民の高齢化が課題で、後継者の育成や活動資金の課題、効果的なPR方法などについて活発な意見交換が行われました。

この日、参加者は喜多方市内の農家民宿に宿泊し、交流を深めました。



セミナーのようす

【企画部】

## 今後の行事

### ○6次化商品テストマーケティング

あいづ“まるごと”ネットでは、会津・南会津地域の6次化商品づくりを支援するため、下記のとおり試食・販売会を実施します。たくさんの方のご来場をお待ちしています！

日 時： 平成28年3月6日(日) 10:00～15:00

場 所： 道の駅あいづ 湯川・会津坂下「人のひろば」内  
河沼郡湯川村大字佐野目字五丁ノ目78-1

出展者： 農家民宿 穂多瑠 (にしんの味噌煮)  
農家レストラン けやき蔵 (立川ごぼう入り団子)  
志賀米店 (会津そばドレッシング)  
戸赤村づくり実行委員会 (花豆パイ)  
※上記出展者の他の商品も試食提供・販売予定です。

問合せ： あいづ“まるごと”ネット事務局  
電話0242-29-5369



2016年3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



【企画部】

### 【ご意見・お問い合わせ】

会津地方推進本部事務局  
(福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課内)  
〒965-8501  
福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)  
TEL (0242)29-5369 FAX (0242)29-5389  
E-mail: kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

